

~レースレポート GR86/BRZ Cup~ 第1大会 オートポリス



GLW Racing Team 2台体制で初参戦

竹村・岡崎ともに新カテゴリーの洗礼を浴びる

2026/4/5(日)

オートポリス

(大分県日田市)

■ 大会概要

日程: 2026/4/5(日)

場所: オートポリス(大分県日田市)

1周 4.674km, 10周

決勝: 晴れ/ドライ

■ 予選結果

プロフェッショナルシリーズ: 18位

竹村寛成選手

クラブマンシリーズ: 13位

岡崎善衛選手

■ 決勝結果

プロフェッショナルシリーズ: 24位

竹村寛成選手

クラブマンシリーズ: 13位

岡崎善衛選手

プロフェッショナルシリーズ

15	87	久保 凜太郎	千葉スバル BS BRZ	3BA-ZD8	10	25'13.144	10.569	0.412	110.626	2'09.949
16	89	奥本 隼士	栃木スバル DL BRZ	3BA-ZD8	10	25'14.131	11.556	0.987	110.554	2'09.999
17	18	箕輪 卓也	IBARAKI TOYOPET GR86	3BA-ZN8	10	25'15.923	13.348	1.791	110.423	2'10.667
18	708	丸山 陽平	エアバスター-EXEDY DL GR86	ZN8	10	25'16.469	13.894	0.546	110.383	2'10.303
19	98	岩澤 優吾	神奈川トヨタ☆DTEC GR86	3BA-ZN8	10	25'17.679	15.105	1.210	110.295	2'10.729
20	32	市森 友明	BRIDE NIX DL GR86	ZN8	10	25'18.774	16.199	1.094	110.216	2'10.837
21	76	森川 基雄	ウイニング制動屋NUTECGR86	3BA-ZN8	10	25'20.246	17.671	1.471	110.109	2'11.075
22	293	岡本 大地	ネットヨク南国5ZigenBSGR86	GR86	10	25'24.431	21.856	4.184	109.807	2'10.655
23	5	井上 尚志	レストアパーツBSまんさくGR86	ZN8	10	25'25.200	22.625	0.769	109.751	2'11.428
24	990	竹村 寛成	GLW Racing withケロケット GR86	3BA-ZN8	10	25'25.707	23.132	0.506	109.715	2'10.852
25	580	瀬上 康徳	アイノラス丸田小屋GR86	3BA-ZN8	10	25'29.935	27.361	4.228	109.412	2'12.053

クラブマンシリーズ

8	310	岡田 友晴	CSIRacing GR86	3BA-ZN8	10	22'40.116	15.283	0.351	123.072	2'14.231
9	62	松原 亮二	ネット群馬ジースパイスGR86	ZN8	10	22'40.617	15.784	0.500	123.027	2'14.638
10	370	中村 賢明	HIROSHIMA+ GR86	3BA-ZN8	10	22'41.402	16.569	0.785	122.956	2'14.942
11	78	土居 哲也	香川トヨタ with TMK GR86	ZN8	10	22'48.056	23.223	6.653	122.358	2'15.401
12	28	伊藤 幸佑	FELIX MS 樟シズンGR86	ZN8	10	22'48.327	23.494	0.271	122.334	2'15.384
13	393	岡崎 善衛	GLW Racing 2nd GR86	3BA-ZN8	10	22'49.582	24.749	1.255	122.222	2'15.313
14	26	中島 保典	WinmaXヘトノスGR86	ZN8	10	22'49.990	25.157	0.407	122.185	2'15.216

ダイジェスト

今シーズン GLW Racing Team は創業 5 年目にして初めて GR86/BRZ Cup に参戦。

新卒社員として 2026 年 4 月 1 日に入社したばかりの竹村寛成(990 号車)がプロフェッショナルシリーズに、GLW の GR 車両開発部マネージャー兼エースドライバーの岡崎善衛(393 号車)がクラブマンシリーズに挑む。

竹村寛成はカートを経て 2022 年に TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup からワンメイクレースに参戦を開始。2024 年からは GR86/BRZ Cup に参戦し、昨年 2025 年シーズンも GR86/BRZ Cup クラブマンシリーズに KR concepts(車両名: デジタルランド/日本自動車大学校 GR86)から継続参戦し年間ランキング 3 位を獲得した実力者で、当社への就職を機に満を持して今シーズンはプロフェッショナルシリーズに参戦しプロドライバー達としのぎを削る。

岡崎善衛は 2010 年からスーパーFJ もてぎシリーズに参戦、以降全日本 F3 選手権やスーパー耐久シリーズに参戦してきた経歴を持つ。サーキットでのシリーズフル参戦は 4 年ぶりとなるが、豊富な経験やラリー、モトクロスなど別カテゴリーに参戦してきた知識も活かして好順位を狙う。

両者ともに平日はスポーツ車両開発エンジニアとして勤務する傍ら土日はレース活動に勤しみ、今シーズンは GR86/BRZ Cup にフル参戦する。

【練習走行(ドライ)】

竹村・岡崎の両ドライバーはメカニックやエンジニアとともに 4/2(木)からオートポリス入り。

両名とも初めてのシリーズへの参戦にも関わらず、臨場感を持ちながらもリラックスした表情で練習走行を行った。



2025 年 TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge Rd. 5
利府ラウンドにて 2 位入賞した際の岡崎選手

4/2(木)、4/3(金)は桜も開花しはじめ、春の木漏れ日を感じる晴れやかな天候のもと、ドライコンディションで気持ち良く大分のサーキットを駆け抜けた。国内で最もタイヤに厳しいと言われるオートポリスにて、車のセッティングを確かめる時間を有意義に使用した。



【特別スポーツ走行(ウェット)】

前日の 4/4(土)は特別スポーツ走行の日だった。朝からの大雨により気温もぐっと下がり、路面も完全にウェットの環境に。雨天のレースが得意な岡崎、苦手意識のある竹村ともに走行に出るが、竹村は雨の路面にタイヤを奪われスピン。クラッシュパッドに当たったものの、車両にダメージは残さなかった。

練習走行でタイヤ内圧セッティングを確認する竹村選手

【占有走行(ウェット)】

午後の占有走行は濃霧により中止となり、両者とも走行が叶わなかった。

【予選(ダンプ)】

昨日の雨とは裏腹に気持ちの良い朝の陽ざしが、阿蘇の山中に位置するオートポリスの牧歌的な雰囲気を実際立たせる4/5(日)の早朝、気温18°C、セミウェットの環境の中予選がスタートした。

まずはクラブマンシリーズの岡崎が出走。

慎重にタイヤを温めて数週周り、アタックを開始。

フリー走行から少しずつタイムを詰めてきていった

が、急遽換装した新しいLSDや慣れないダンプコンディションに苦戦し、攻め切ることができず13位にてフィニッシュ。

2分13秒435とタイムは自己ベストを出しており、もう少し上げられる手ごたえがあっただけに悔いの残る結果となった。

次にプロフェッショナルシリーズの竹村が出走。

岡崎が予選で苦戦した内容なども活かして良いタイムを出したいところ。

クラブマンの予選から数十分しか経過していないにも関わらず刻一刻と乾いていく路面にアジャストすることも求められた。

少しでも路面状態が良くなることを狙うプロドライバーたちが前半全くピットを離れず、予選時間も折り返しになる頃ようやく一部のドライバーがコースインするも、大半がチェッカーが振られるタイミングにすべてを賭けてアタックに入る状況。

竹村は中盤あたりでスタートし、アタックに入る。

その後アタック中の車両にラインを譲った車両が雨でスリップし、後続の車両とクラッシュ。

イエローフラッグが振られる展開に。

このような混乱の中竹村はギリギリアタックし切り2分08秒355をマーク。

残念ながら自己ベスト更新とはならず18位フィニッシュとなった。

後方にはイエローフラッグが提示されている中で十分な減速を果たしていなかったということでタイムが抹消されてしまったプロドライバーが多数控える、不気味なグリッド順となる模様だ。



予選前に岡崎選手のコンディションを確認する佐々木良典監督

【決勝(ドライ)】

午後になり天候も急速に回復し気温22°C、路面も完全ドライという環境の中、クラブマンシリーズの決勝がスタート。

13番グリッドという全体のど真ん中での出走であり、混戦が予想された。同カテゴリー最初のスタートはまずまず、スタート順位通り1コーナーを通過。



悔しさを隠せない竹村選手に対して労いの言葉をかける上司の岡崎選手

1周目に1台をパスしその後も常に前に仕掛けていったが、中盤で今までなかったABSの作動がありオーバーランしたところ、後ろに抜かれ元の順位に逆戻り。

結局その順位のままチェッカーを受けることとなった。

プロフェッショナルシリーズでは予選の後にトラブルの影響で3台がリタイアを表明し、グリッドには27台が並んだ。

竹村選手は1台繰り上がり17番グリッドでスタート。

スタート自体は悪くなかったものの、後方から猛追するBRZ勢を中心とする大物プロドライバー達の圧に押され、1周目で20番台に大きく順位を落とす。

2周目以降は293号車の岡本大地選手が後方につける中でディフェンスを強いられ、前方車両を追うことに集中できない状況が続く。

2周は順位を守りきったものの、4周目でコントロールを失った隙を突かれパスされる。

次のラップで1台は抜くことができ6周目以降の後半戦に期待がかかる展開だったが、最終コーナーで白煙を上げて止まった車両の消火作業のためセーフティカーが導入される。

結局レースはセーフティカー先導のままチェッカーとなり、不完全燃焼の1戦目となった。



多くのプロドライバー達の圧と戦う竹村選手

【ドライバーコメント】

岡崎善衛選手: 予選の1発のタイムを上げることが決勝の順位に大きく左右するので、これは次の課題としたいです。

本カテゴリーでの経験値が圧倒的に足りていない初戦でメカニックとの試行錯誤、新セッティング、雨のレースなど多くの経験ができ、久しぶりのレースは得るものも多く、早く次戦を走りたいという前向きな気持ちになっています。

竹村寛成選手: 昨年まで出走していたクラブマンシリーズとのギャップに終始驚かされる週末でした。

決勝ではプロドライバー達に抜かれる場面もあったものの、互角にやり合えたタイミングも多く、逆に自信にも繋がりました。自分自信の不用意なミスで順位を落としてしまった箇所もありますが、丁寧に練習を重ねて冷静さを保てれば挽回できると思っています。

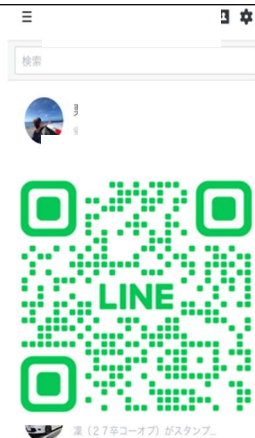
明日から新入社員研修に参加しますので、本業でも良い自動車設計エンジニアになれるよう頑張ります。



決勝前に心を落ち着かせる岡崎選手と大野秀昭代表取締役

各種 SNS やってます！

公式 LINE
候補者との主要連絡手段



YouTube
日本語 8割・英語 1割・ベトナム語 1割



X
主にレースについて発信



Linkedin
海外向け情報発信・採用



Instagram
リール投稿してます！



GLW について

GLW は、モビリティ業界において自動車専門技術サービスを提供するビジネスソリューション企業です。

社員一人ひとりの持つ技術力を武器に、受託開発や技術コンサルティング、エンジニア派遣サービスを展開しています。創業5年目の若い会社ですが、社員数は既に130人を超えており、日本中の自動車メーカーおよびサプライヤーの設計開発業務を支えています。

社員構成上の特徴は、外国籍社員の割合が7割以上である点です。豊かなダイバーシティと技術力の掛け算で、日本のモビリティ業界を変革に導きます。

GLW Racing Team は社員チームに拘り、モータースポーツと設計の良いフィードバックループを生み出し、もっと良いクルマづくりに貢献します。今シーズンはGR86/BRZ Cup、TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge に参戦します。

<メディアからのお問合せ先>

株式会社 GLW 海外戦略部/人事部 シニアリーダー 杉浦 真吾

TEL: 045-900-8393 E-mail: newg-recruit@glw.co.jp

